

1) 研究課題名

浸潤性乳癌の病理診断におけるバーシカン発現の有用性について

2) 研究の対象

2010年4月1日から2018年3月31日までに愛知県厚生連江南厚生病院で、乳癌の診断のもと手術された方を対象とします。

3) 研究目的・方法・研究期間

<研究の目的>

バーシカンとはプロテオグリカンの一種で、大動脈、癌の固有間質、胎児性組織などの細胞外基質成分として存在することか知られています。細胞の増殖、分化、再生に深く関わっていると考えられています。研究室ではこれまで、乳癌におけるバーシカンに関する研究で、浸潤性導管癌の間質におけるバーシカン発現細胞数が予後と相関すること、浸潤性導管癌と浸潤性小葉癌の間質におけるバーシカン発現細胞数に差があることなどを見出してきました。今回我々は、病理組織学的に鑑別が問題となる浸潤性導管癌のうちの硬癌と浸潤性小葉癌の間質におけるバーシカン陽性細胞数を定量し、統計学的な解析を行い、バーシカン発現細胞数の多寡が両者の鑑別診断に有用かどうか検討することを計画しました。この研究によって組織学的に鑑別の難しい硬癌と浸潤性小葉癌のより正確な診断が可能となり、適切な治療選択が可能となります。

<研究の方法>

江南厚生病院の過去の乳癌手術材料から、硬癌 20 例、浸潤性小葉癌 20 例を選定し、パラフィンブロックから切片を作成し、抗バーシカン抗体を用いた免疫組織化学染色を行います。浸潤部での単位面積当たりのバーシカン陽性細胞を定量し、統計学的な解析により有意差を検定します。

<研究期間> 実施承認日～2019年12月31日まで

4) 研究に用いる試料の種類

試料：病理検体（パラフィンブロック）

これらの試料は個人が特定できないように匿名化をして研究に用います。研究終了後の試料・情報の取扱い：匿名化された組織標本は将来にわたって解析に用いるため研究終了後も期限を決めずに保管します。それ以外の個人が特定できる情報や対応表の電磁データは研究成果公開後3年間、研究終了後5年間の後に消去用ソフトで適切に削除します。

5) 倫理的配慮

本研究は名古屋大学生命倫理審査委員会の承認を受けた上で行われます。研究に用いる癌組織は患者さんが手術された時に切除された組織を使用するため、新たに組織を採取することはありません。検討は肉眼的観察や顕微鏡観察で得られた形態学的情報のみを取得して行い、遺伝子情報の検索は行いません。症例には全て新たな検体番号をつけて識別を行い、臨床所見や病情報も個人情報が特定できないように匿名化した上で用いるため、個人が特定されることはありません。個人情報の保護に最大限の配慮をして研究を行います。

この研究へのご自身の組織の利用を望まれない場合には、この研究には使用いたしませんので、下記連絡先までご連絡、ご相談ください。しかしながら、すでに匿名化を行った後では個人の特

定が不可能ですのでデータを削除できないことがあります。

6) 問い合わせ先

研究責任者：名古屋大学大学院医学系研究科医療技術学専攻 長坂徹郎

研究分担者：名古屋大学大学院医学系研究科医療技術学専攻 橋本克訓

住所：名古屋市東区大幸南1丁目1番20号

電話番号：052-719-3152

nagasaka@met.nagoya-u.ac.jp

7) 苦情等の連絡先

名古屋大学医学部保健学科庶務係

電話番号：052-719-1504